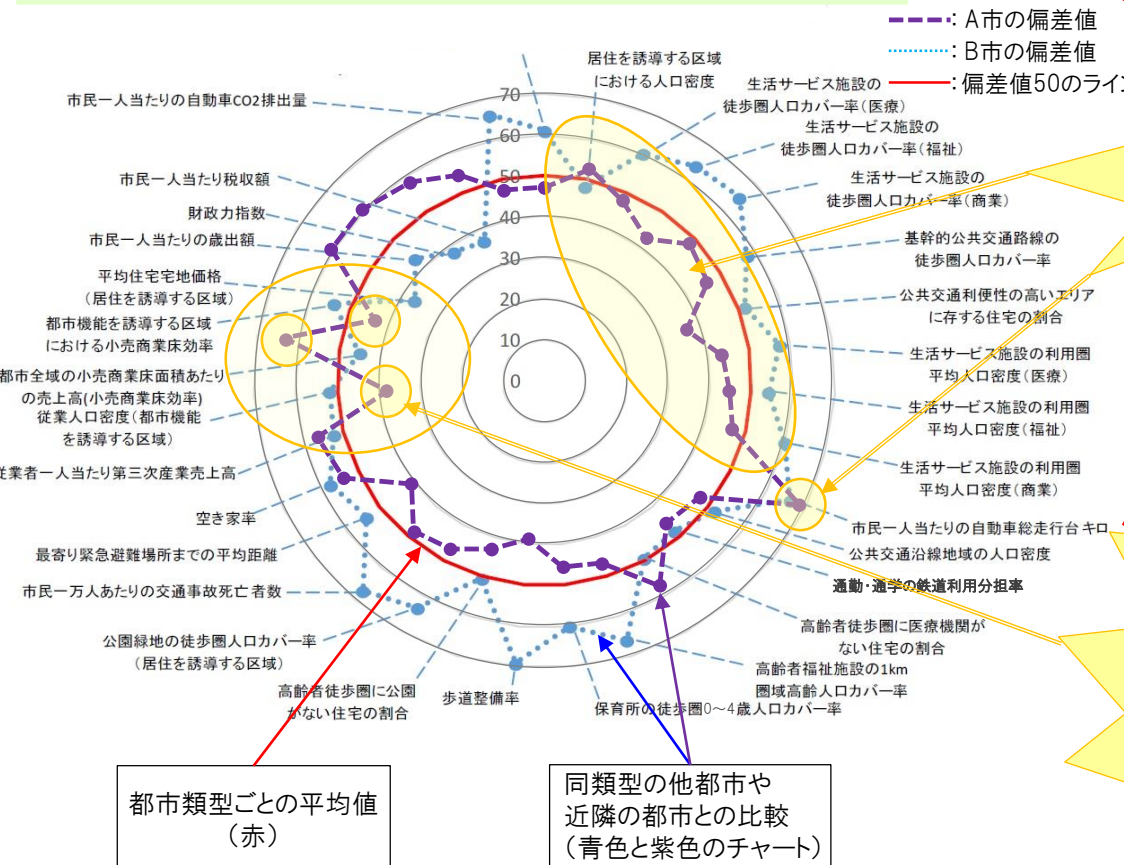


各自治体等におけるニーズ

- 各自治体においてコンパクト・プラス・ネットワーク等まちづくりを推進するためには、まずは各自治体が自らの都市を知ることが前提。
- 自らの都市の強み・弱みが分かれば、例えば、市町村における施策の重点分野の内部調整を図る際や、市民に対してその妥当性を説明する際などにおいて、一目でわかる根拠の提示やさらに詳細な分析のきっかけとすることができるようになる。
- しかし、人口、面積、財政、産業等の個別分野でのデータ比較はよく行うが、都市の全体的な姿を表す全国的なデータはなく、自らの都市の特徴(強み・弱み)を定量的に俯瞰することは簡単ではない。
- ▶同類型都市の平均や他都市と、自都市とを、複数の指標項目で俯瞰的に比較することが簡易にできるツールを提供。 **近日公開予定**

レーダーチャート作成ツールによる同類型のA市及びB市の比較イメージ

- ・ワンタッチでレーダーチャートを作成するツールを装備。
- ・市町村の都市計画担当者等による簡易な操作で都市の強み・弱み等を可視化。



気づき!

A市は生活サービス施設等の徒歩圏人口カバー率が低く、自動車走行台キロが高い数値となっている。

分散型の都市構造であり、自動車交通への依存度が高いことが推察される。

施策の検討やスムーズな合意形成に寄与

気づき!

A市は、都市全域の売上高は高いが、都市機能誘導区域の小売商業床効率先、従業人口密度は低い。

商業、サービス業は、郊外では活発だが、中心部では活発でないと推察される。

・施策、事業の重点実施等の方向性を検討する材料の一つとして活用。
 ・住民等への説明の際に一目でわかる根拠資料として活用。

都市モニタリングシートの構成と特徴

○様々な統計や調査に散在する都市に関するデータを一つのシート(全体表)に集約することで、多分野にわたる複数の指標を用いた分析や見える化が可能。

※RESASでは対応していない都市計画や都市施設等都市構造に関するデータも集録。様々なデータとをクロスさせた分析も可能。

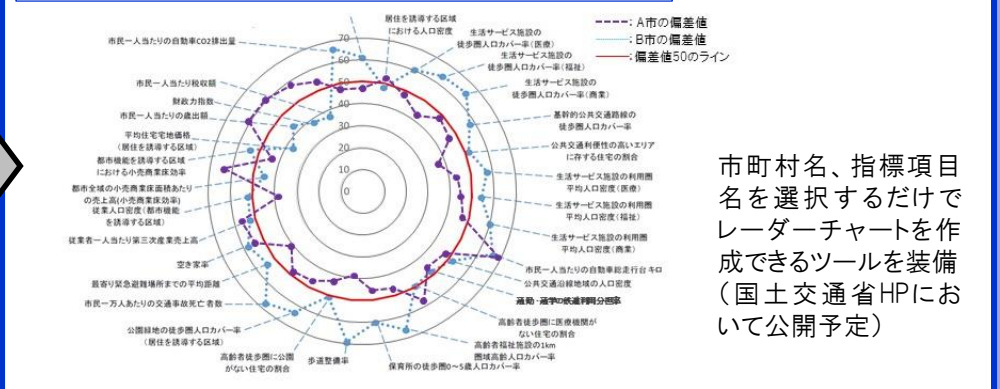
○簡易に使えるレーダーチャート作成ツール及び市町村ごとに作成された個票を標準装備。

全体表 1,719市町村 × 280指標(国土交通省HPにおいて公開予定(Excel形式))

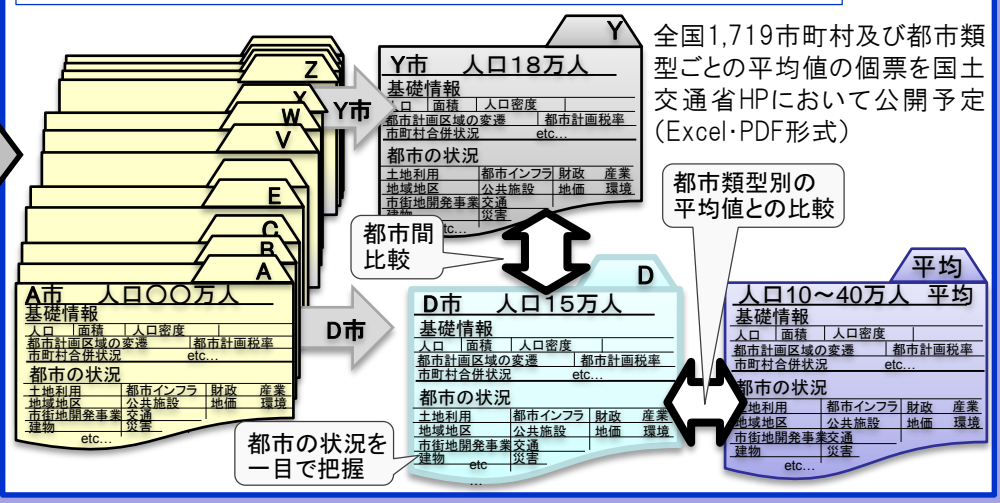
○都市モニタリングシートの集録項目(指標)

分野	集録項目(指標)例(全280指標)
①基礎情報	人口推移、将来人口、都市計画税率、市町村合併状況、都市計画区域面積
②都市計画	土地利用、地域地区、都市施設
③都市施設	都市インフラ、公共施設
④交通	交通手段分担率、通勤・通学の交通手段分担率、平均トリップ長、自動車保有台数
⑤防災	土砂災害危険箇所、警戒区域、浸水想定区域、津波浸水想定、避難施設数
⑥産業・経済	地価、農林業経営対数、農業産出額、製造業従業者数、製造品出荷額
⑦財政	財政力指数、経常収支比率、実質公債費比率、将来負担比率、歳入額、歳出額
⑧生活利便性の指標	日常生活サービスの徒歩圏充足率、住宅戸数、鉄道の分担率
⑨健康・福祉の指標	徒歩・自転車の分担率、高齢者の外出率、保育所の徒歩圏0~4歳カバー率、歩道設置率
⑩安全・安心の指標	交通事故死者数、最寄り緊急避難所までの距離平均、空き家率
⑪地域経済の指標	サービス売上高、市街化区域における小売商業床効率、平均住宅地価
⑫行政運営の指標	市街化区域開発許可面積、調整区域開発許可面積、市町村民税
⑬エネルギー/低炭素の指標	市民一人当たりの自動車CO2排出量

同類型のA市及びB市を偏差値レーダーチャートで比較



都市モニタリングシート個票同士を見比べて各項目ごとに横並び比較



標準装備

さらに都市モニタリングシートの全都市全データを使用した、より高度な可視化及び分析も可能

GISを活用した可視化 多変量解析の基礎データとして活用 等

※「都市構造の評価に関するハンドブック」(平成26年8月、国土交通省都市局都市計画課)の指標に相当
 (URL:<http://www.mlit.go.jp/common/001104012.pdf>)